MISSION 140th Anniversary

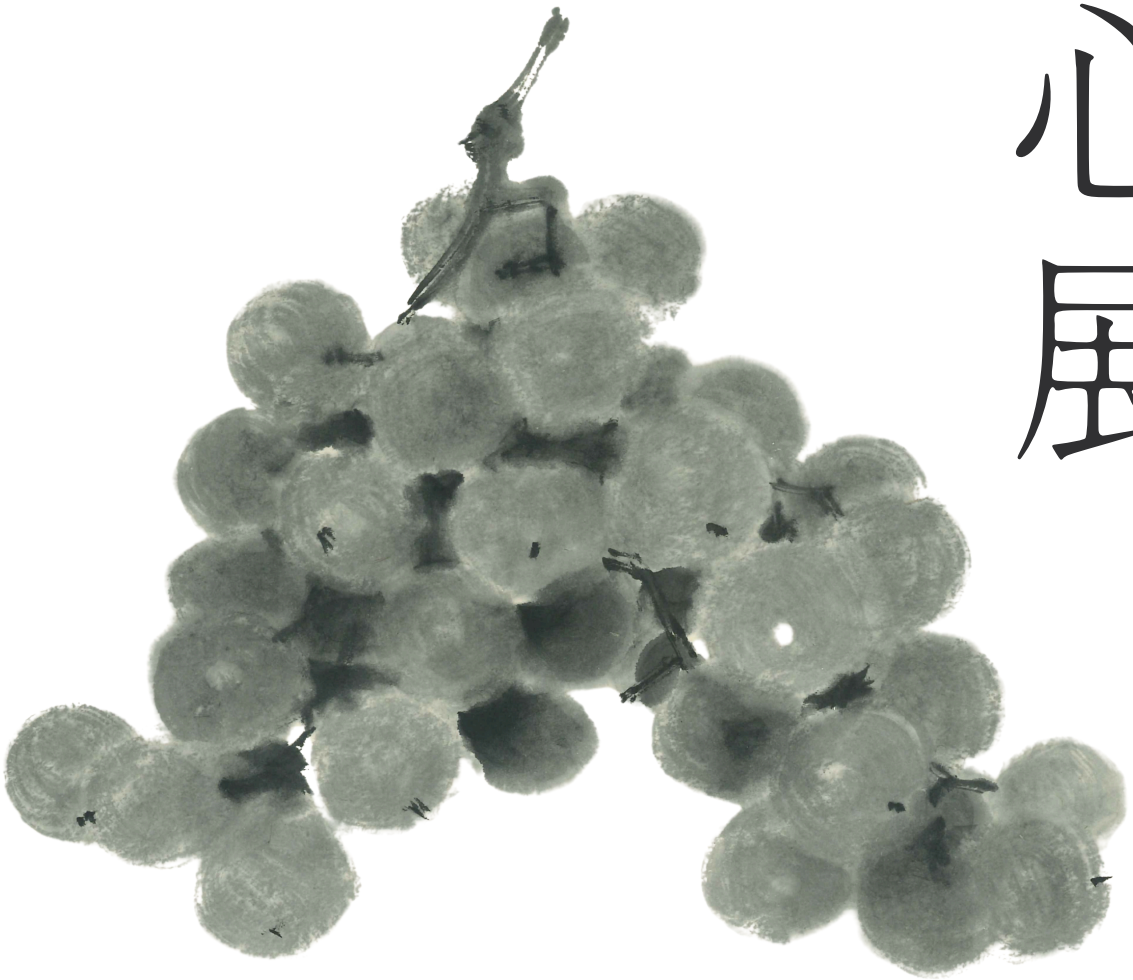
2025年度 福岡女学院 学院活性化推進助成 特別展

# 田中冬心展

## 生徒とともに歩んだ
## 絵筆の記憶

田中冬心センセーは
徳永ヨシ先生と並んで
もう一つの
女学院の　偉大なる星
女学院の　スピリット――
時々
なつかしく思い出す
気合いをもって　生きていた
そして
それを一生　貫いた

よしだいたる「田中冬心センセー」



2025
10. 3 FRI. —— 12.19 FRI.

**会場：学校法人 福岡女学院　資料展示室**（〒811-1313　福岡市南区曰佐3-42-1　125周年記念館6階）
2025年10月3日（金）～ 12月19日（金）（平日 9：30～16：30）入場無料

2025年度　福岡女学院　学院活性化推進助成　特別展

# 生徒とともに歩んだ絵筆の記憶　「田中冬心展」

2025年10月3日（金）～12月19日（金）（平日 9：30～16：30）

ガイドツアー、
土曜見学などの
お知らせは
こちらから➡➡

冬心展

## 会場

**学校法人 福岡女学院　資料展示室**

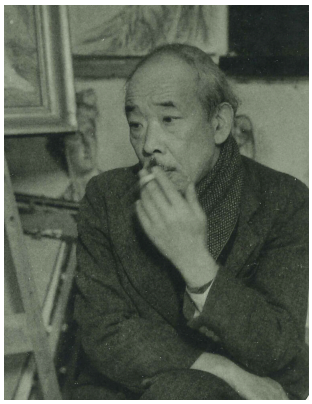
〒811-1313　福岡市南区曰佐3-42-1　125周年記念館6階

田中冬心は福岡女学院のアイデンティティともいえる校章をデザインした教師としてその名を歴史に刻んでいます。しかし、その輝かしい功績の陰には、画家としての多様な芸術活動や生徒の個性を重んじた教育への情熱が隠されています。校章考案者としての側面だけでなく、画家、そして教育者としての多岐にわたる足跡をたどり、その全貌を少しでも後世に伝えることができればと考え、本展を企画いたしました。

息子で、父と同じく福岡女学院に勤め、画家としての道を歩んだ貝島（田中）福通や、冬心に学んだ池田和子、大黒愛子、松田悦子などの美術の世界に止まらず、「本物を知れ」「見地を広げろ」「自分のものさしをつくれ」を信条としたその存在に影響を受けた者は決して少なくないはずです。戦時下に学生たちが中心となって刊行した文藝雑誌「こをろ」を文化圏として支えたグルッペたちも冬心とともに同じ学舎の空気に浴していました。

本展では、美術と教育の両面から田中冬心の生涯を紹介いたします。福岡女学院との関わり、そして現在に続く「スピリット」（よしだいたる「田中冬心センセー」『詩集風っ子』第４集1976）の源泉を感じていただければ幸いです。

（企画　大國眞希、協力：福岡女学院資料室、福岡女学院大学図書館）



**田中冬心・田中順之助（1893 - 1959）**

学生時代から田中天麗朗と号し俳句を雑誌に投稿しており、1911年には洛陽堂より刊行された『都会スケッチ』に竹久夢二、恩地孝四郎、宮武辰夫、久本ＤＯＮと共に参加。1913年から太平洋洋画研究所で学び、1920年には津田青楓の食客となる。1921年に二科展、1923年には二科展のほか、平和博覧会美術展やサロン・ドートンヌにも出品。関東大震災を契機に帰福し、1926年から福岡女学院の教師となり、死の直前まで「学院独特の個性教育の開拓のために」活躍し、校章のデザインも考案した。川端康成「正月の旅愁」の挿絵、ピエール・ロチ『青春』の装幀、吉岡禅寺洞により創刊された俳句雑誌「天の川」の表紙などを手掛ける一方、「福岡洋画研究所」「女流洋画研究会」「名も会則もない“人間の善意”をデッサンする集い」等を開き、美術教育にも尽力した。

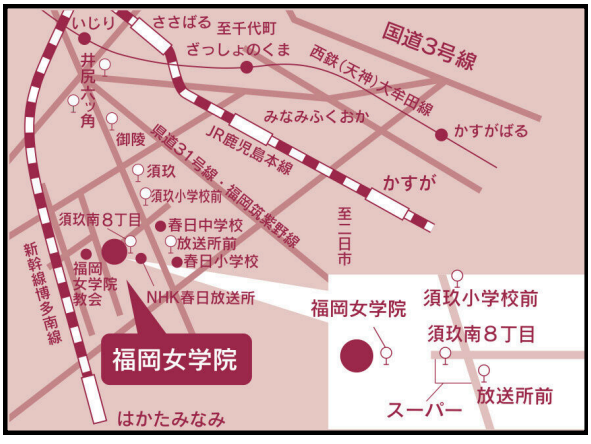
## アクセス

**公共交通機関でお越しの方**

ＪＲ鹿児島本線 南福岡駅から西鉄バス45番に乗車（約15分）
西鉄天神大牟田線 井尻駅から西鉄バス45番に乗車（約12分）
西鉄天神大牟田線 大橋駅から西鉄バス42番に乗車（約13分）

**お車でお越しの方**

福岡都市高速道路　野多目ランプより10分




## お問い合わせ

学校法人 福岡女学院　資料展示室
TEL: 092-575-5996（平日 9:30 - 16:30）
MAIL: archive@fukujo.ac.jp